



2023年12月14日

各位

会社名 池上通信機株式会社  
代表者名 代表取締役社長 清森洋祐  
(コード番号 6771 東証スタンダード市場)  
問合せ先 常務取締役常務執行役員  
経営管理本部長 青木隆明  
(TEL 03 - 5700 - 1113)

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2023年12月14日開催の取締役会において、今後の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を下記のとおり審議・決議いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 現状分析・評価

当社グループのROEは、新型コロナウイルスの感染拡大やサプライチェーンの混乱による半導体を始めとした原材料の供給不足や価格上昇、地政学的リスク等の影響もあり、収益性が低下していることから、2020年3月期以降は当社の株主資本コスト（7%～8%と想定）を下回る水準で推移しました。

一方、PBRは株価の低迷により、継続して1倍を下回る状況にあります。これは、コロナ禍からの業績の回復が遅れていることに加えて、当社グループの持続的成長に向けた事業戦略・成長戦略について、株主や機関投資家の皆さまからの十分な理解が得られていないことによるものと認識しております。

	2019年3月期 (第78期)	2020年3月期 (第79期)	2021年3月期 (第80期)	2022年3月期 (第81期)	2023年3月期 (第82期)
売上高(百万円)	24,956	23,229	21,850	18,470	22,146
営業利益(百万円)	1,095	768	407	255	▲997
経常利益(百万円)	1,094	552	498	293	▲1,000
当期純利益(百万円)	845	705	444	178	▲1,074
株主資本コスト(%)	6.9	6.8	6.7	7.4	8.1
1株当たり純資産(円)	2,053.68	2,050.04	2,111.91	2,144.67	1,986.53
1株当たり純利益(円)	140.83	112.20	69.56	27.98	▲167.96
ROE(%)	7.0	5.5	3.3	1.3	▲8.1
期末株価(円)	1,134	838	890	631	640
PER(倍)	8.1	7.5	12.8	22.6	▲3.8
PBR(倍)	0.6	0.4	0.4	0.3	0.3

※2023年3期の決算において、棚卸資産評価損8億27百万円を売上原価に計上させていただきました。

## 2. 改善に向けた方針・目標

上記の現状分析を踏まえ、当社グループのパーパス（「技術」のチカラで、あなたをしあわせに。）を基軸に、資本コストおよび資本収益性を意識したうえで、下記の取り組みを行い、今後の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図って参ります。

- ①収益力の強化
- ②非財務戦略の強化
- ③継続的な株主還元の実現
- ④IR活動の強化

また、上記の方針を実現するための指標として、資本収益性を評価するROEの目標値を設定し、具体的には当社の株主資本コストを上回るROE 8%以上を実現することで、あわせてPBRの向上を目指して参ります。

## 3. 改善に向けた具体的取組み

### ①収益力の強化、②非財務戦略の強化

当社グループは、2023年5月25日に、2025年度を最終年度とする新たな中期経営計画を公表させていただきました。この中期経営計画の着実な実行により、売上高・利益を伸ばし、資本収益性の改善を目指します。あわせて、非財務戦略として、人的資本・知的資本の強化、環境に配慮した経営を推進して参ります。

#### <連結業績目標>

	2024年3月期 (第83期)	2025年3月期 (第84期)	2026年3月期 (第85期)
売上高(百万円)	22,500	23,500	24,500
営業利益(百万円)	600	800	1,000
営業利益率(%)	2.7	3.4	4.1

※中期経営計画につきましては、下記をご参照ください。

<https://www.ikegami.co.jp/ir/pdf/20190523.pdf>

### ③継続的な株主還元の実現

剰余金の配当については、短期的な業績に連動するのではなく、下記の株主還元方針のもと、中長期的な安定配当を維持・継続して参ります。

#### <株主還元方針>

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要な責務であるという認識のもと、収益の状況や経営環境に対応した安定配当の継続を基本とし、企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案し、配当を行うことを基本としています。

今後も当社グループは、企業価値向上を確たるものにするために、成長戦略の確実な実施と、安定的に利益を増出すための企業体質強化を積極的に推進し、業績に裏付けられた成果の配分を継続して参ります。

また、当社の業績状況および人的資本投資やM&A等の成長投資等を総合的に勘案したうえでの  
自社株買い等の資本政策を検討して参ります。

#### ④IR活動の強化

株主・機関投資家との面談を継続的に実施し、当社グループの持続的成長に向けた事業戦略・成長  
戦略を株主・機関投資家の皆さまと共有するとともに、対話によって得られたご意見・ご要望等を当  
社の取締役会にフィードバックすることで、企業価値の向上を目指して参ります。

- 機関投資家との 1on1 ミーティングの継続実施
- IR 情報の充実
- 広報・IR 部門の強化
- 個人投資家向け IR の強化

以上

Ikegami

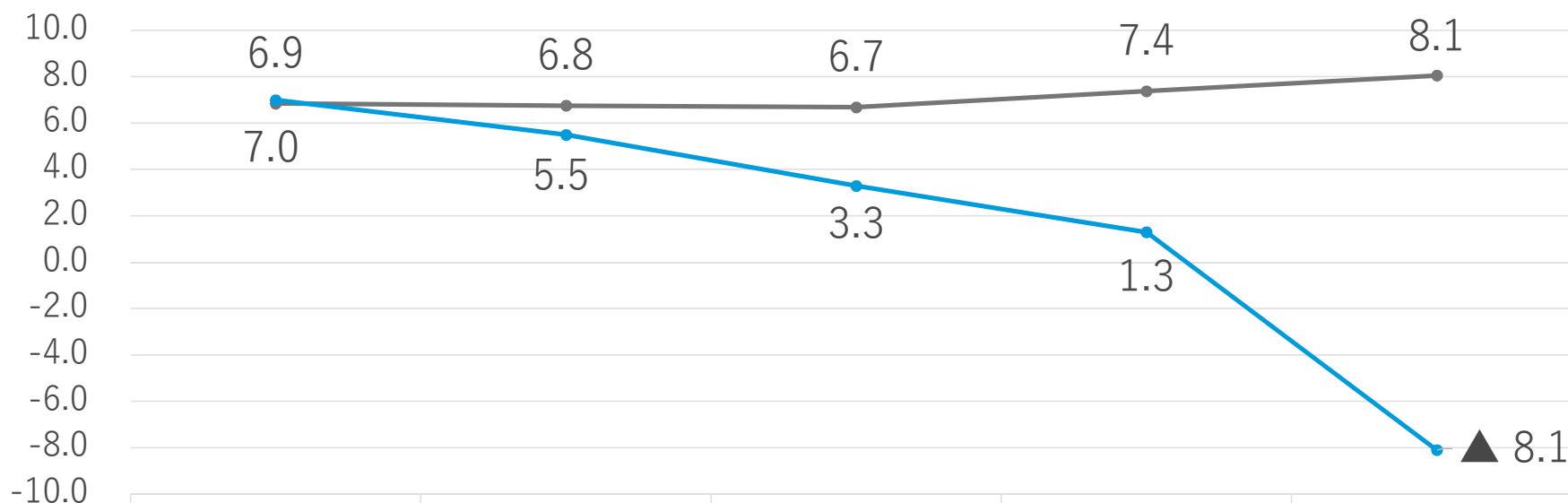
池上通信機株式会社

# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2023年12月14日  
池上通信機株式会社

# 現状分析（資本収益性）

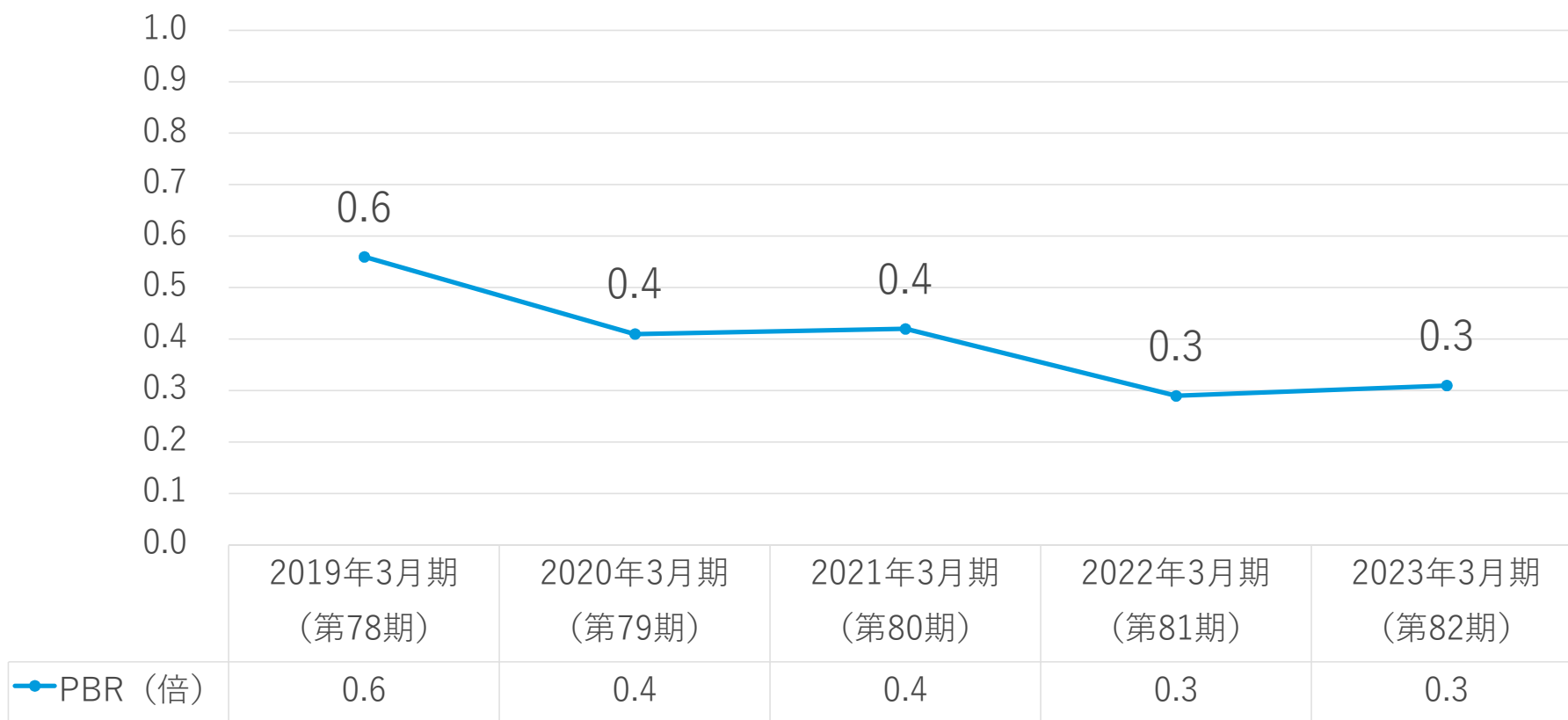
- 2020年3月期以降、ROEは当社の株主資本コスト（7%～8%と想定）を下回る水準で推移



	2019年3月期 (第78期)	2020年3月期 (第79期)	2021年3月期 (第80期)	2022年3月期 (第81期)	2023年3月期 (第82期)
● 株主資本コスト (%)	6.9	6.8	6.7	7.4	8.1
● ROE (%)	7.0	5.5	3.3	1.3	▲ 8.1

# 現状分析（市場評価）

- PBRは0.3倍～0.6倍と1倍を大きく下回る



# 改善に向けた方針・目標

Ikegami's Purpose  
「技術」のチカラで、あなたをしあわせに。

当社グループのパーパスを基軸に、資本コストおよび資本収益性を意識したうえで、下記の取り組みを行い、今後の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図って参ります。

①収益力の強化 ②非財務戦略の強化 ③継続的な株主還元の実現 ④IR活動の強化

上記方針を実現するための指標として、資本収益性を評価するROEの目標値を設定し、具体的には当社の株主資本コストを上回るROE 8%以上を実現することで、あわせてPBRの向上を目指して参ります。

$$\begin{array}{ccc} \text{PBR} & = & \text{ROE} \quad \times \quad \text{PER} \\ (0.3\sim 0.6\text{倍}) & & (\blacktriangle 8.1\sim 7.0\%) \\ \downarrow & & \downarrow \\ \text{1倍超} & & \text{8\%以上} \end{array}$$

# 改善に向けた具体的取組み

## ①収益力の強化

- 「中期経営計画2023-2025」に定める成長戦略を着実に実行し、産業システム事業の注力事業領域への拡大戦略と放送システム事業の事業安定化戦略を推進することで収益力を強化
- コア技術の進化と深耕、アライアンス、更にはM&Aも視野に、既存事業のバリューアップと事業領域の更なる拡大を推進
- 収益力強化のための人材・成長事業への積極的な投資
  - メディカル製品の増産に向けたクリーンルームの増床
  - 検査/画像処理（インスペクション）事業の西日本地域における販売体制強化を目的とした、セールスエンジニアの増員とショールームの開設 ほか





# 改善に向けた具体的取組み

## ②非財務戦略の強化

- 人的資本の強化
  - 中長期的な人員採用戦略/ジョブローテーションによる人財多能化の推進
  - 女性活躍の更なる推進（継続就業支援、役職者への登用） ※2028年3月期の女性社員比率の目標：25%
  - シニア人財の活用と働きがいのある職場・しくみ（制度）の整備
- 知的資本の強化
  - 注力事業領域にフォーカスした知的財産戦略の推進
  - 外部技術教育環境の活用と奨励制度によるプロとしての自己研鑽の推進
- 環境への取り組み
  - 省電力設備への入替による電気使用量の削減と、再生可能エネルギー利用への移行によるCO2排出量削減（scope2）
  - 業務用車両の保有台数削減、およびHV/EV車両への入替（scope1）
  - 開発における環境負荷の軽減対応、開発製品の省電力化、リユースの促進

# 改善に向けた具体的取組み

## ③継続的な株主還元の実現

- 株主還元方針

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営の重要な責務であるという認識のもと、収益の状況や経営環境に対応した安定配当の継続を基本とし、企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保の充実等を勘案し、配当を行うことを基本としています。

今後も当社グループは、企業価値向上を確たるものにするために、成長戦略の確実な実施と、安定的に利益を増出するための企業体質強化を積極的に推進し、業績に裏付けられた成果の配分を継続して参ります。

# 改善に向けた具体的取組み

## ④IR活動の強化

- 機関投資家との1on1ミーティングの継続実施
  - 対話によって得られたご意見・ご要望等の取締役会へのフィードバック
- IR情報の充実
  - 当社ウェブサイトをはじめとした各種情報媒体を活用した情報発信の充実
- 広報・IR部門の強化
- 個人投資家向けIRの強化
  - 潜在個人投資家を対象としたアンケートの実施と取締役会へのフィードバック

## Ikegami's Purpose

「技術」のチカラで、  
あなたをしあわせに。

卓越した技術と匠の技で社会が求める新たな価値を創造し、  
持続可能な社会インフラ構築の一翼を担い、広く世の中に貢献し、  
社会から必要とされる企業であり続ける。

これがIkegamiのパーパス（社会に存在する意義）です。

# Ikegami

- 本資料に含まれる予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性および事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
- 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
- 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。